

社会資本総合整備計画 第1回変更

みどりがおかちくとしさいせいせいびけいかく
緑ヶ丘地区都市再生整備計画

やまがたけん やまのべまち
山形県 山辺町

平成26年12月

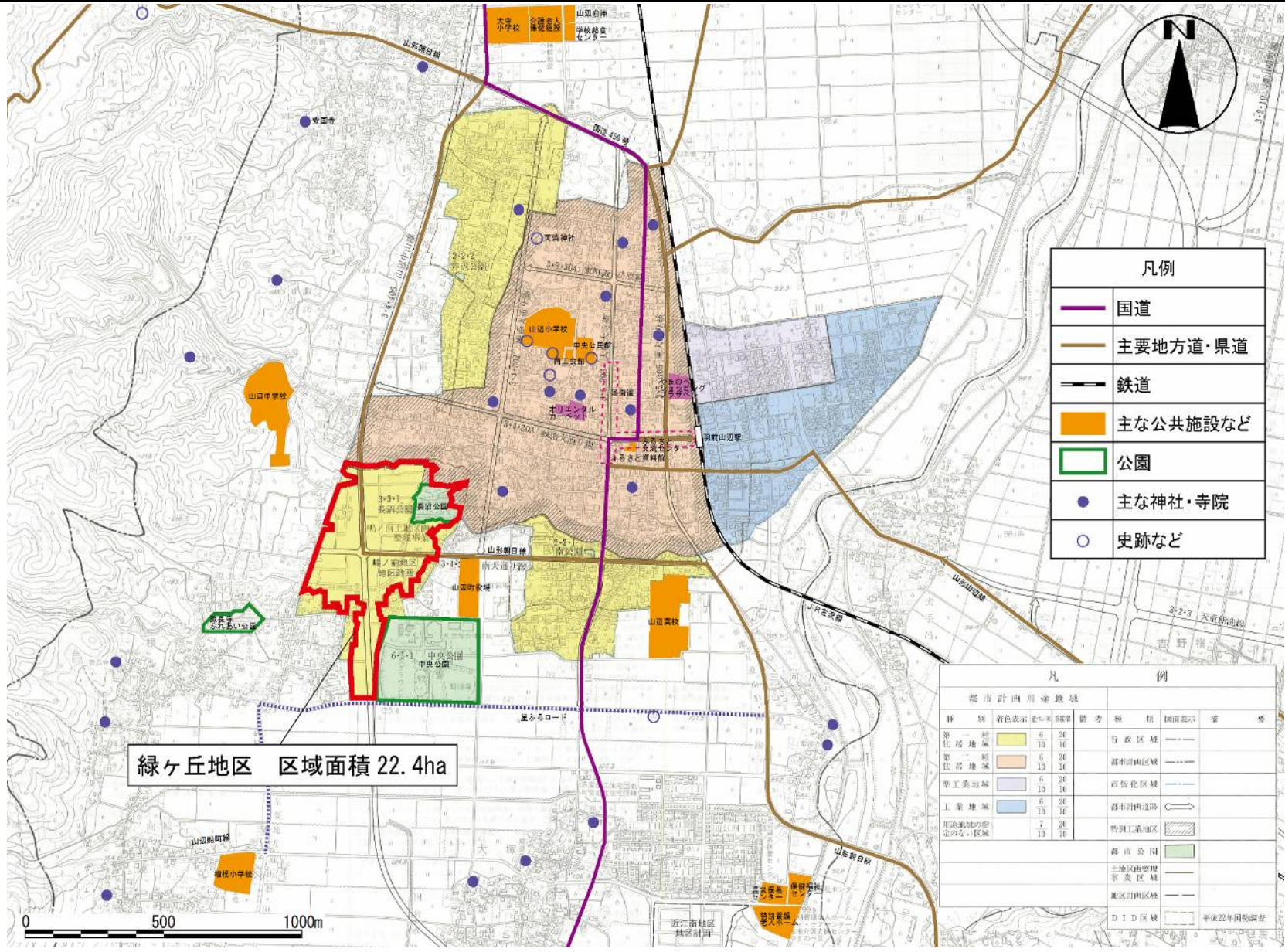
社会資本総合整備計画（市街地整備）

平成 年 月

計画の名称		緑ヶ丘地区都市再生整備計画													
計画の期間		平成24年度～平成28年度（5年間）					交付対象		山辺町						
計画の目標		<p>大目標：安全・安心で快適な居住環境と官民協働のまちづくり</p> <p>目標1：官民協働によるコミュニティの拠点づくり</p> <p>目標2：安心して住み続けることのできる居住環境の形成とコミュニティの充実</p>													
計画の成果目標（定量的指標）		<ul style="list-style-type: none"> ○観光客数の増加 ○観光案内所（窓口）の利用者数の増加 ○商店街の空き店舗の減少 													
定量的指標の定義及び算定式							定量的指標の現況値及び目標値			備考					
						当初現況値 (H23当初)	中間目標値 (H29末)	最終目標値 (H31末)							
緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況（人/年）						102	-	400							
定住人口（人）						657	-	850							
防災対策に対する満足度（%）						17	-	25							
全体事業費	合計 (A+B+C)	443百万円	A	443.0百万円 うち提案分 1.7百万円	B	0百万円	C	000百万円	効果促進事業費の割合 (A(提案事業分)+C)/(A+B+C)		0.4%				
交付対象事業															
A1 基幹事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
A-1	都市再生	一般	山辺町	直接	山辺町	緑ヶ丘地区都市再生整備計画事業	公園、高次都市施設等 22.4ha	山辺町						443.0	別添1
											合計	443.0			
B 関連社会資本整備事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容 (延長・面積等)	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
											合計	0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				
C 効果促進事業															
番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	要素となる事業名	事業内容	市町村名 港湾・地区名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
									H24	H25	H26	H27	H28		
											合計	0			
番号	一体的に実施することにより期待される効果										備考				

(参考図面) 市街地整備

計画の名称	緑ヶ丘地区都市再生整備計画		
計画の期間	平成24年度 ~ 平成28年度 (5年間)	交付対象	山辺町



緑ヶ丘地区 区域面積 22.4ha

	国道
	主要地方道・県道
	鉄道
	主な公共施設など
	公園
	主な神社・寺院
	史跡など

都市計画用途地域	種別	色表示	面積	備考	種別	図面表示	備考
第一種住宅地域	第一種	黄色	5/20		行政区域	---	
第二種住宅地域	第二種	オレンジ	5/20		都市計画区域	---	
準工業地域	準工業	紫	5/20		市街化区域	---	
工業地域	工業	青	5/20		都市計画道路	---	
用途地域の指定のない区域	指定なし	白	7/20		特別工業地区	---	
					都市公園	---	
					土地区画整理事業区域	---	
					地区計画区域	---	
					DID区域	---	

平成22年国勢調査

都市再生整備計画 第1回変更
緑ヶ丘地区

山形県 山辺町

平成26年12月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	山辺町	地区名	緑ヶ丘地区	面積	22.4 ha
計画期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度	交付期間	平成 24 年度 ~ 平成 28 年度				

目標
<p>大目標:安全・安心で快適な居住環境と官民協働のまちづくり 目標1:官民協働によるコミュニティの拠点づくり 目標2:安心して住み続けることのできる居住環境の形成とコミュニティの充実</p>

目標設定の根拠
<p>まちづくりの経緯及び現況 ○山辺町は山形県の中央部に位置する人口約15,000人の町で、南東に県都山形市が隣接する。 山辺町東部の平地にはJR左沢線が南北に走り、出羽丘陵のなだらかな東斜面に市街地が形成され、山形市に隣接する地理的条件から山形市のベットタウンとなっている。市街地周辺は田園地帯が広がり、果樹、水稲、畜産を主とする農業が営まれている他、地場産業としてニット、絨毯の繊維産業が盛んである。 ○緑ヶ丘地区は、山辺町中央部の出羽丘陵のなだらかな東斜面に位置し入居が進む嶋ノ前土地区画整理事業区域に相当する。 組合施行による嶋ノ前土地区画整理事業は、平成13年10月23日に事業認可を受け都市基盤施設の整備を進めてきたが、平成15年から保留地処分を実施した。山形市に近接する立地条件から入居が進み、平成23年現在で若年ファミリー世帯を中心とする187戸、657人が居住している。また、事業区域内には住民の日常生活を支える商業施設が3店舗立地しており、地区東側には町役場庁舎や中央公園の公共施設が隣接する。 ○都市基盤となる公共施設の整備は進んでいるものの、身近な公益施設等の整備には立ち後れがみられる。 住民の生活に欠かすことのできない憩いの空間や、新旧住民間のコミュニティ形成の場となる集会施設等のコミュニティ施設整備に立ち後れがみられ、これらの身近な公益施設等の整備が待たれている。 ○災害時避難場所の整備に立ち後れがみられる。 緑ヶ丘地区は分譲開始後間もないこともあり、地区における防災機能整備に立ち後れが見られ、身近な避難場所の確保が求められている。 ○地区の居住者によるコミュニティ形成が立ち後れている。 平成15年以降の宅地分譲で新たに入居した新住民が大半のため、居住者間の交流が乏しく自治活動も低調で、地区のコミュニティ形成に立ち後れがみられる。</p>

課題
<p>○土地区画整理事業を推進する当地区にとって、豊かなにぎわいのある街として形成することは、山辺町の活性化を推し進める一翼であり重要な課題でもあことから、快適な住環境を備えた街の形成による定住人口の増加を推進することが必要である。 ○平成15年以降宅地分譲による入居者や大型店舗利用者の増加に伴い、地区内外住民の交流とにぎわいがあり快適で豊かな住環境や、安全・安心な街の形成が強く望まれている。地区におけるコミュニティ拠点の形成と地区の安全性を高める防災機能の充実による住環境の充実が必要である。 課題として以下の2つがあげられる。 ◇コミュニティの拠点づくりが必要である。 地区でコミュニティ活動を行う環境が整っていないことから、ソフト、ハードの両面からコミュニティ形成の支援と拠点づくりを住民参加による官民協働で進める必要がある。 ◇憩いの場となる環境が不足している。 嶋ノ前土地区画整理事業が終盤を迎え、居住者が増えつつある現在、住民の憩いの場となり災害時の避難場所となる公園整備に立ち後れがみられるため、快適で安全安心な居住環境の形成を進める必要がある。公園整備にあたっては、住民参加による官民協働で公園整備内容について検討するとともに、維持・管理についての検討も進める。</p>

将来ビジョン(中長期)
<p>「第4次山辺町総合計画(平成19年3月、平成19年度～平成29年度)において、嶋ノ前土地区画整理事業地区をはじめ住宅立地を誘導すべき地区については、多様な世代の価値観や生活面でのニーズを踏まえ、良質の住宅供給を促進するものとされている。この住居系土地利用の促進を図ることにより、山辺町は県都の形成・発展に寄与する魅力ある郊外型市街地経済圏の確立を図っていくとしている。</p>

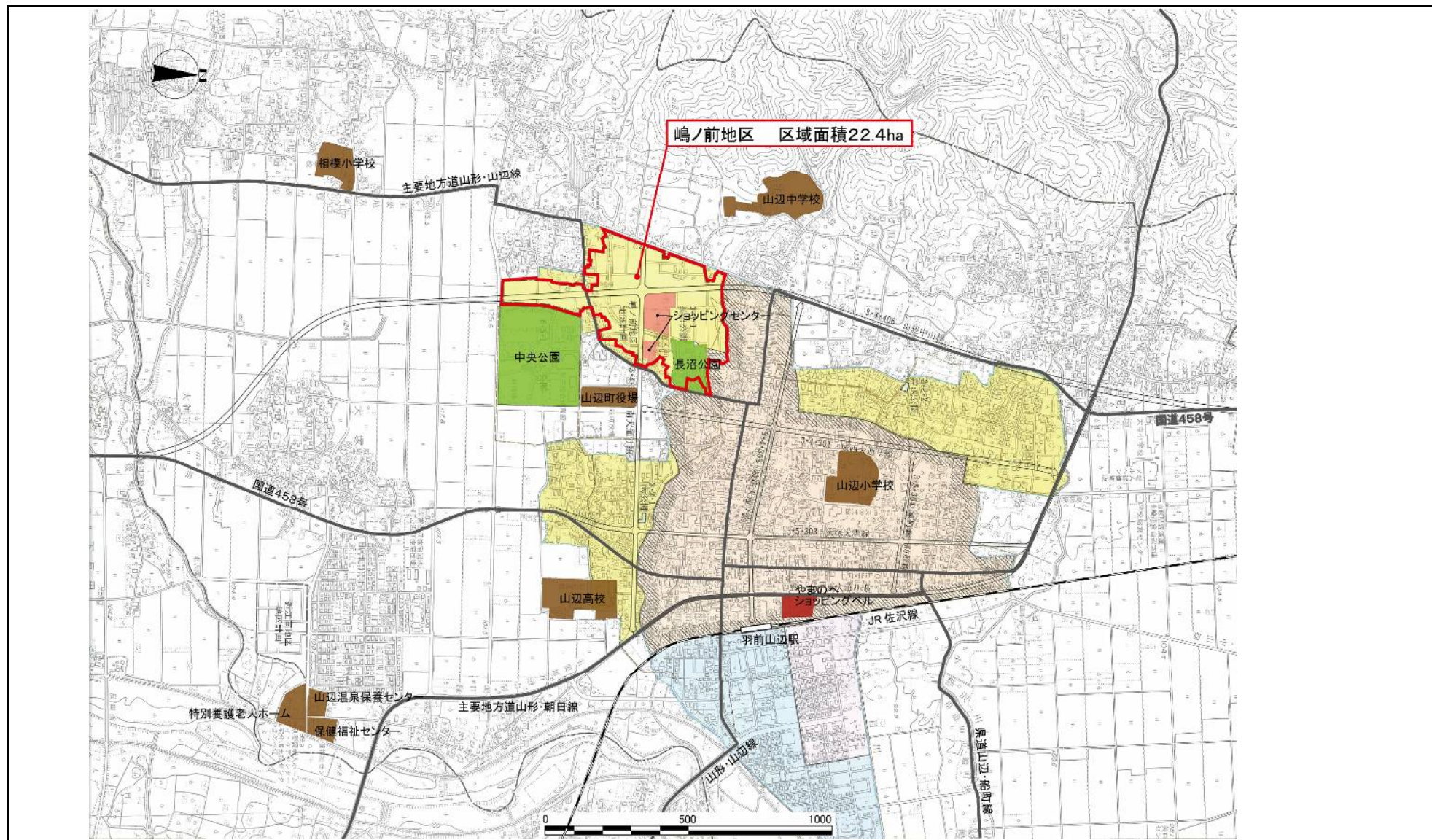
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値		目標値	
					基準年度		目標年度
緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況	人/年	緑ヶ丘コミュニティセンターにおいて開催する行事に参加する延べ人数	地区の交流や文化活動の場となるには、多くの住民に利用されることが重要であることから、緑ヶ丘地区の行事におけるコミュニティセンター利用者数の増加を目指す。	102(H23年実績)	H23	400	H28
定住人口	人	緑ヶ丘地区の居住者数	地区が豊かなにぎわいのある街となるには、多くの居住者を有することが重要であることから、定住人口の増加を目指す。	657(H23年実績)	H23	850	H28
防災対策に対する満足度	%	防災対策に対する緑ヶ丘地区居住者の満足度	住民の安心感・満足度の向上が定住人口増加を図る要素の一つと考え、居住者が安全安心に暮らせる防災機能の充実が必要であることから、長沼公園・街区公園に災害時対応施設を整備し、居住者の防災に対する満足度向上を目指す。	17%(H23年調査)	H23	25%	H28

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>○整備方針1【住民参加によるコミュニティ拠点づくり】</p> <p>◇緑ヶ丘コミュニティセンターの整備を推進し、地区コミュニティの拠点形成を図る。</p> <p>◇コミュニティセンターは、ワークショップによる住民参加型の整備推進を図る。同時に住民相互の交流とコミュニティ形成のきっかけ作りを目指す。</p> <p>◇地域住民主体のワークショップ等を開催し、地域住民が賑わいのあるまちづくりに計画から実施まで参画する。</p>	<p>・高次都市施設(基幹事業:緑ヶ丘コミュニティーセンター整備事業)</p>
<p>○整備方針2【快適な居住環境の形成】</p> <p>◇身近な安らぎの場として長沼公園及び街区公園の整備をすすめ、快適で豊かな居住環境の形成を図る。</p> <p>◇公園整備にあたっては、防災機能を持たせた整備を進めることとし、安全安心な居住環境の形成を図る。</p> <p>◇居住環境の整備と良質な住宅供給を進めながら定住人口の増加を図る。</p>	<p>・公園(基幹事業:公園整備事業)</p> <p>・嶋ノ前土地区画整理事業(関連事業:区画整理事業)</p>
<p>・</p>	
<p>その他</p>	
<p>○山辺の歴史・文化</p> <p>山辺町内には縄文時代の遺跡や古墳時代の古墳が残っており、古くから人々が生活を営んでいた事が確認されている。奈良時代にはすでに条里制が取られ早くから開けてきた地域で、南北朝時代には全国66か寺建立された安国寺の一つがある。江戸時代には紅花などを扱ひ豪商となる商人も現れ、山間部で「青苧」を栽培し織物として上方まで運ばれていた。当時をしのばせる催しの雑街道があり、昔の雛人形を飾る。</p> <p>山辺町は森と湖沼の町と言われるように県民の森に13の湖沼があるなど、自然豊かで山間部にはまんだらの里の作谷沢や棚田の大蔵、玉虫姫伝説の玉虫沼の他、最上軍と上杉軍の最初の激戦地の直江兼統率いる上杉勢約2万の大軍を迎え撃った畑谷城址がある。また、山辺町から眺める山形市の夜景は「星降る道」として有名である。</p> <p>一方、まちなかに目を向けると、町の発展を支えてきたニットなどの繊維産業は衰退傾向だが、伝統と文化のまちを象徴しており、伝統産業では手織絨毯で有名なオリエンタルカーペットなど、歴史・文化では全国的に珍しい400mほどしか離れていない山野辺城址と高橋城址、旧山野辺陣屋玄閣、安達峰一郎生家、歴史・文化の発信地となっているふるさと資料館などがある。</p> <p>また、多くの社寺があり、天満神社、諏訪神社、愛宕神社の三社祭りで行われる稚児行列は有名である。</p> <p>まちなかに城があったこともあり、道路が三叉路や喰い違いとなっており、安易に直進できない工夫がなされている。また、坂道や石垣も多く残されている。このような道路と歴史的建物がそのまま残されているのが、まちなかの大きな特徴となっている。</p> <p>山辺の特産品としては、手織絨毯やファッションニットの他、品質の高いさくらんぼや山辺の湧水で育ったわさび、古くから伝えられてきた鯉料理などがある。</p> <p>○まちづくり活動</p> <p>緑ヶ丘地区は新しい地域であり、現在、自治会設立を進めているところである。そのため、まちづくり活動としての実績は無いものの、子供会等の事業を行っている組織も存在しているため、今後のまちづくり活動に結びつく組織立ち上げに期待を寄せている。</p>	

都市再生整備計画の区域

<p>緑ヶ丘地区(山形県山辺町)</p>	<p>面積 22.4 ha</p>	<p>区域 山辺町嶋ノ前土地区画整理事業地内</p>
----------------------	-------------------	----------------------------



緑ヶ丘地区(山形県山辺町) 整備方針概要図

目標	安全・安心で快適な居住環境と官民協働のまちづくり	代表的な指標	(仮称)緑ヶ丘コミュニティセンター利用状況 (人/年)	102人 (H23年度)	→	400人 (H28年度)
			定住人口 (人)	657人 (H23年度)	→	850人 (H28年度)
			防災対策に対する満足度 (%)	17% (H23年度)	→	25% (H28年度)

